

しらすぎ通信

理念:「個の尊重」「安心と信頼」を大切に、
質の高いサービス提供を目指します。

第186号

■発行日:令和 3年 6月

■発行:指定管理者

公益財団法人横浜市総合保健医療財団

■発行責任者:総合相談室長 伊藤未知代

〒222-0035

横浜市港北区鳥山町1735番地

☎045(475)0103 Fax:045(475)0101



今年も早いもので、もう半分が過ぎようとしています。新しい生活様式の中、6月の花の紫陽花が咲き、当施設内も穏やかな時間が流れております。ご利用者様が、健やかに暮しいただけるよう、これからも、日々心掛けてまいります。

職員紹介

若年性認知症支援コーディネーター

川中洋至係長

しらすぎ通信をご覧のみなさま、こんにちは。
4月から 若年性認知症支援コーディネーター
として 新たに採用となりました、総合相談室の
川中洋至 と申します。

新採用とは言っても、3月末で横浜市を定年退職した
オールドルーキーです。横浜市では高齢者・障害者支
援の業務や生活保護のケースワーク業務などを経験
してきました。総合相談室は 職場のチームワーク
がとても良く、その中の一員として充実した日々を
送らせていただいています。

さて、若年性認知症とは、65歳未満で発症した
認知症のことです。発症年齢は平均で51.3歳と
され、働き盛りの現役世代の方々です。年齢が若い
ゆえの課題やニーズが様々にあり、若年性認知症
支援コーディネーターはそれらの課題解決に向け、
ご本人やご家族の思いを受け止めながら支援を
行っていく必要があります。

私にとってコーディネーターの仕事はとても重要
でやりがいのあるものです。これからも若年性認知
症の方の力になれるよう努力してまいりますので、
今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

7月の行事食

7月7日(水) 七夕 行事食 昼食



七夕そうめん・蒸し茄子のしょうが和え・
天ぷら(盛り合わせ)付け合わせ天つゆ・
フルーツ(スイカ)

7月21日(水) 選択食 夕食

* 魚のカレーパン粉焼き

* メンチカツ ※どちらか選んでいただけます。



ごはん・冬瓜のくず煮・みそ汁
フルーツ(キウイフルーツ)



7月28日(水) 土用の丑 行事食 昼食

うな井・きゅうりと茗荷の酢の物・
すまし汁・フルーツ(メロン)



ワクチン接種について

高齢者の新型コロナウイルスワクチン
接種が、行われていますね。

当施設でも、入所者の皆様の
ワクチン接種を6月中旬から
開始しております。



6月の中庭の様子

=紫陽花=

老健の中庭に咲く
紫陽花の濃い紫色が
竹林の新緑に
映えてました♪





～ リハビリテーション通信 ～



しらさぎ苑にある福祉用具について『置き型手すり』

介護老人保健施設には、介護を必要とされる方々の自立を支援し、生活機能の維持・向上を図るという役割があります。医師をはじめとした各専門職員がチームとなって在宅復帰や在宅生活への支援などに取り組んでいます。

●ご本人の持っている力を発揮するために…

リハビリ施設である介護老人保健施設では、リハビリの場面で「歩く」、「起き上がる」、「体を動かす」ことをすれば、その他の時間は「手伝ってもらってやればよい」というわけではありません。生活場面でも、ご自身で行える行為は出来るだけご自身の力で行っていただきたいと思います。しかし、動作に「安定性」や「確実性」が伴わない場合は、お一人で行っていただくのではなく、施設スタッフの見守りのもとで行う、または直接お手伝いをしています。その為、リハビリ場面では「出来る」けれど、生活場面では「出来ない」という乖離が生まれてしまうのです。そこで、リハビリの時間だけではなく、日々の生活の中で施設スタッフなどの見守り下でも安全にご本人の持っている力を発揮していただく為に、「置き型手すり」といった福祉用具が活用されます。

●自ら動く生活動作＝「リハビリ」

施設環境はご自宅とは異なり、お一人お一人にカスタマイズ化されてはいません。ご利用者さまがより使いやすいように都度々お部屋の環境は設定し直していますが、その方に必要な個所に手すりなどが必ず備え付いているわけではありません。そこで、こうした「置き型」の手すりを活用することで環境をカスタマイズ化でき、例えばベッドからトイレまでの動線上に「道」をつくり、お一人でも手すりを伝いながらトイレへと通いやすくします。その他にも、今までは壁伝いで歩くしかなかった場所も「置き型」手すりを置くことで、より安全にそして確実に移動することを可能にします。こうして、ご本人にとって「一人でも出来る」環境を作ることは、達成感や意欲につながり、「動くことへの自信」が育まれていきます。そして、リハビリ場面で「出来る」ことが、生活場面でも「出来る」行為へと変わります。日々積み重なる自ら動く生活動作そのものが「リハビリ」となっています。

しらさぎ苑ではご本人さまの持っている力をより安全な形で発揮していただけるよう、今後も福祉用具の充実を図っていききたいと思います。

しらさぎ苑リハビリ職



マスクが外せない2度目の夏を迎えます。マスクの着用によって熱がこもりやすく体温調整がしづらくなってしまいます。熱中症は、30℃を超える真夏日から増加し、半数は自宅で起きているそうです。のどが渇いていなくても、定期的な水分補給を心掛けましょう。

